3. 地域力がいちばん「市民が主役、市民参加のまちづくり」

続きまして、「地域力がいちばん　市民が主役、市民参加のまちづくり」でございます。

重点施策として、交通渋滞緩和政策を強力に推進します。

真栄原から大謝名までの渋滞の激しい県道34号へ、右折帯を増設するなど渋滞緩和策を県に強く要請します。

真志喜から喜友名へ抜ける県道の建設推進を図ります。

市道宜野湾11号と国道330号線を結ぶはしご状の市道整備に取り組みます。

保育園等付近道路へのキッズゾーン設置に取り組みます。

各公共施設及び地区公民館へのWiFi環境の整備に取り組み、自治会、青年会、婦人会、老人会等の地域組織活性化を図り、市民力を高め、市民が主役のまちづくりを実践するとともに、市政討論会等を開催し、市民の声を市政に反映することに取り組みます。

また、大山地区等の区画整理事業への地権者等の参加によるまちづくりを積極的に推進します。

4. 基地のない平和がいちばん「基地の無い平和なまちを目指す」

続きまして、「基地のない平和がいちばん　基地の無い平和なまちを目指す」でございます。

まちのど真ん中にある普天間飛行場は、戦後75年以上もの長期間、航空機事故の危険性や騒音被害等、市民の生活環境に大きな負担を強いていることに加え、効率的なまちづくりを進める上での阻害要因となっております。

そのため私としましては、最重要政策に位置付け、普天間飛行場の固定化を許さず、その危険性を除去するため、基地の運用停止及び一日も早い閉鎖、返還並びに基地負担軽減の実現に向けた取り組みを強力に推進します。これに加えて普天間飛行場の移設先の進捗状況に合わせ、常駐している航空機を段階的に移駐させることを要請してまいります。

基地のない平和なまちを目指し、普天間飛行場の返還時期の明確化を日米両政府に強く求め、返還までの道筋をしっかりとつけることができるよう取り組んでまいります。

航空機騒音に対する軽減策を日米両政府に強く求め、市民生活を守るため、返還までの間の市民の基地負担軽減を目に見える形で取り組みます。また、米軍基地内外の環境調査実施に向けた取り組みとして、米軍普天間飛行場から公共下水道へ排出される汚水については、年1回PFOS等の水質調査を行い、その結果を市のホームページにて公表し、市民の不安解消に努めます。

普天間飛行場の跡地利用は、地権者等との協働で、脱炭素社会を目指した夢のある跡地利用計画を策定し、普天間飛行場跡地開発等の新たな法整備も含め、国との対話を通して、予算の確保に取り組みます。

インダストリアル・コリドー地区については、早期返還を実現し、西普天間住宅地区と連携したまちづくりに取り組んでまいります。

5. 夢のある明日がいちばん「誰もが夢を持ち、自分らしく暮らせるまちづくり」

続きまして、「夢のある明日がいちばん　誰もが夢を持ち、自分らしく暮らせるまちづくり」でございます。

重点施策として、海浜公園内の屋外劇場を全面改築し、新たに8千人規模の施設を整備し、あわせて県内著名アーティストの資料館を併設し、ファンの集いの場を創設します。

公共交通機関の空白地域解消のため、オンデマンド型交通機関や、市内循環バス、ミニバス等の運行を目指し、琉球大学と同大学医学部及び大学病院や各地域を結ぶ取り組みも進めてまいります。

モノレールの延伸及び新交通システムの導入に取り組みます。スーパーシティ構築に向け、自治体DX（デジタル・トランスフォーメーション）を強力に推進します。

宜野湾市立体育館や多目的運動場等でのドローンを使ったスポーツ競技大会の開催や、スポーツ競技としての認知度が高まっている「eスポーツ」の普及に取り組みます。

男女共同のまちづくりを目指し、女性の社会進出を促進し、誰もが自分らしく暮らし続けられるまちづくりを実践します。

捨て犬、捨て猫の殺処分ゼロに向けて取り組みます。

以上、今後4年間の市政運営にあたり、私の基本的な考え方と、取り組む姿勢について所信の一端を申し述べました。

私はこれまでの一期4年間につきましても、いつも市民の目線で仕事をしてきました。引き続き、第四次宜野湾市総合計画基本構想で掲げた将来都市像『人がつながる　未来へつなげる　ねたてのまち宜野湾』の達成に向け、「市民の暮らしがいちばん。」「やっぱり、宜野湾がいちばん！」だと実感していただけるよう、市職員一丸となって、市民の皆様及び市議会と連携して市政運営に全力で取り組んでいくとともに、継続しております様々な課題につきましても、しっかり解決を目指し、またその道筋を探ってまいります。

今後とも、議員各位並びに市民の皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、市長二期目の就任にあたっての所信表明といたします。

令和4年9月30日
宜野湾市長
松川正則

『宜野湾がいちばん！』と市民の皆さまが実感できるために